

〔普及の現場から〕

東備地域の畜産業の最近の取り組み

東備農業普及指導センター

1. はじめに

東備地域は、備前市、赤磐市、和気町の2市1町からなる農村地帯で、畜産は酪農・肉用牛・養豚・養鶏それぞれあるものの、高齢化や混住化の影響で農家戸数が減少し、点在化している現状です。

そのなかで、地域の酪農家と肉用牛農家がお互いの経営・技術の向上と情報交換、地域農業振興への寄与を目的に、平成15年度に東備畜産研究会を設立し、現在会員19名で研修会や研究・実証活動に取り組んでいます。

2. 牛尿の簡易曝気処理

牛尿については散布時の臭気発生や河川の汚濁等周辺住民に対する配慮が必要で、その結果、尿の有効利用が限られるだけでなく、散布可能な一部のほ場への過剰散布による飼料作物の品質低下等の懸念も持ち上がっていました。

そこで、平成17年度に夢農業チャレンジ事業を導入して鳥取方式の簡易曝気処理施設を設置し、悪臭の抑制と液肥としての利用技術の確立を図りました。

鳥取方式の簡易曝気処理とは、中古のFRPサイロを曝気槽として再利用し、ブロワーで送風して曝気処理を行い、牛尿を希釈せず微生物（活性汚泥）の力で悪臭成分や汚濁物質を低減し、処理された牛尿を液肥として利用するものです。

この方式では、①イニシャルコストやランニングコストが安価、②自家施工が可能、③シンプルな設計のためメンテナンスが容易、④運転方法が簡単、というところが魅力となっています。

今までは臭気や河川の汚濁等を心配して、①人家から離れた水田に、②天候を見ながら、③時刻を見計らって、尿散布を行っていましたが、簡易

曝気処理を行うことにより悪臭がなくなり、今まで散布できなかつたところにも安心して散布できるようになりました。今では住宅のすぐ前のほ場でもバキュームカーからホースを引っ張り散布しています。

また、液肥を施用した水田は前年まで低収量の水田でしたが、予想以上の収量があり、そのうえ化成肥料の節約で低コストになったと喜んでい

る。さらに、飼料費の高騰で経営が逼迫するなか、多額の投資を必要とせず（設置費：約50万円）、ランニングコストも安価（電気代：24時間連続運転で月に6～7千円程度）なこの処理方法は、都市化に悩む畜産農家には期待の持てる技術であると思います。



牛尿の簡易曝気処理施設

3. 和牛の水田放牧

高齢化や担い手不足によって耕作されなくなった遊休水田を利用して、平成15年から電気牧柵を利用した和牛の放牧を行い、農村環境の保全と飼料代の節約に努めています。

牧草を播種した水田は4月初旬から入牧可能で、11月末までの間順次受胎確認の済んだ牛を放牧し、分娩予定の1月前に下牧しています。

和牛繁殖経営でのメリットとしては、①労力の削減：4～11月の期間、放牧により

岡山畜産便り 2009.04

毎日の飼養管理が軽減される

②生産費の節減：自給飼料を確保でき、購入飼料費が節減できる

③牛の健康増進：運動と日光浴により牛の健康管理ができ、繁殖成績が向上する

④増頭が可能：飼養管理が省力化され、余剰労力を増頭に向けられる などです。

ソーラーバッテリーとグラスファイバーの支柱を利用した電気牧柵は安価で容易に設置・移動ができることから、現在では和気町内2カ所で3.2haの面積にまで拡大しています。本年4月から新たに2カ所で取り組む予定で、水田の保全と飼料高騰対策の一石二鳥の妙手として期待が高まっています。



和牛の水田放牧

4. 優良和牛の受精卵移植

平成19年度からおかやま和牛増頭ネットワークモデル事業を導入し、乳育成牛への受精卵移植による優良和牛の増殖に取り組んでいます。

19・20年度にそれぞれ3頭ずつ計6頭の採卵を行い、56個の正常卵が得られ、現在のところ45卵の移植のうち15頭の子牛を生産しています。

酪農家にとっては乳子牛の価格以上で引き取ってもらえ、和牛農家は繁殖牛頭数を削減できるなど両者にメリットがあります。これからも順次分娩を控えているため、今後が楽しみになっています。



引き取ったET子牛

5. 耕畜連携による飼料米の生産・利用

平成19年度から和気町の大型肥育農家と耕種農家の連携により飼料米の生産に取り組んでいます。

平成20年度は国産飼料資源活用促進総合対策事業を導入し、8.12haで約43tの飼料米を生産しました。近くの飼料会社で刎付きの状態ビール粕とのTMRに調製して給与しましたが、配合割合が低いため、特に嗜好性にも問題はありませんでした。

耕種農家側は転作奨励金や飼料米販売代金により所得確保ができること、畜産農家側はトウモロコシの代替飼料として安価に入手できることなど両者に利点があり、今後益々取り組みが拡大することを期待しています。



飼料米を混合したTMR飼料

6. おわりに

冒頭で記述したとおり、東備地域の畜産農家戸数は少ないですが、少数精鋭でさまざまな取り組みを行い、地域の畜産業ひいては農業・農村の活性化に大きく貢献しています。